

# ボランティア活動における高齢者グループの 学習を支援するガイドの開発

—高齢者の well-being の向上とボランティアコミュニティの形成を目指す支援—

堀 田 かおり (群馬大学大学院保健学研究科)

本研究の目的は、高齢者の well-being の向上と高齢者同士が支え合うボランティアコミュニティの形成を促進するために、ボランティア活動における高齢者グループの学習を支援するガイドを開発することである。研究1では、先行研究を再分析して統合し、学習の要素と支援を具体化することで学習の支援ガイド案を作成した。研究2では、保健師5名に半構造化面接調査を行い、学習の支援ガイド案の内容妥当性と実行可能性の検証を行った。

その結果、学習は、「相互関与」「共同の営み」「共有領域」「活動の意味」の4要素で構成し、4段階の発展とした。学習への支援について、潜在の段階は、「相互関与」と「共同の営み」への支援とした。結託の段階は、4要素全てへの支援とした。成熟の段階は、「相互関与」「共有領域」「活動の意味」への支援とした。維持・向上の段階は、「相互関与」と「共同の営み」への支援とした。また、【グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援】は、全段階で行う支援とした。本ガイドの特徴は、どの学習段階でも活用できること、高齢者の特性を考慮した支援を含んでいること、ともに学び合う高齢者グループの基礎である「相互関与」の拡大を常に支援していることである。

本ガイドを活用し、高齢者グループの学習を支援することによって、【地域における支え合いの関係の構築】が促進され、やがてボランティアコミュニティに発展しうると考える。

KEY WORDS : older people, well-being, volunteer community, guide to support learning

## I. はじめに

少子高齢化社会および人口減少社会が急速に進んでいる我が国では、制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会とがつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会<sup>1)</sup>である地域共生社会の実現が掲げられている。地域共生社会推進検討会<sup>1)</sup>は、地域づくりに向けた支援の一つとして、ケアし支え合う関係性を広げ、交流・参加・学びの機会を生み出すコーディネートを挙げている。また、地域共生社会を目指すために、地域包括ケアシステムの構築に向けた高齢者の社会参加・介護予防のための取組では、ボランティア活動など役割がある形での社会参加が重要<sup>2)</sup>であることが指摘されている。保健医療福祉関係者は、地域住民が役割を持って主体的に活動し、住民同士で支え合う関係を構築できるように支援していく必要がある。

ボランティア活動を行うことによって、高齢者は、

IADL障害のリスクの低下<sup>3)</sup>、認知機能低下の改善<sup>4)</sup>、生活満足度やwell-beingに好ましい影響を与える<sup>5)</sup>、今後の自分自身の健康や生き方を考える学習になる<sup>6)~8)</sup>ことが明らかになっている。さらに、グループでボランティア活動を行うことによって、〈助け合える仲間の形成<sup>9)</sup>がされることも示されている。これらのことから、高齢者にとってグループで行うボランティア活動は、ともに学習する機会であり、この学び合いが高齢者個人の健康と高齢者ボランティア同士の関係形成を促していると考えられる。しかし、これまでの研究は、ボランティア活動による高齢者の心身への影響または高齢者グループの変化のどちらか一方に焦点をあてた研究であり、高齢者個人とグループの相互の影響にまで言及した研究はみられなかった。

そこで、筆者は、先行研究<sup>10),11)</sup>において、状況的学習論<sup>12)</sup>を用いて高齢者グループを実践コミュニティと捉え、ボランティア活動における高齢者グループの学習と学習による高齢者個人・グループの変化を明らかにした。その結果、ボランティア活動を通して3つの要素である「相互関与」「共同の営み」「共有領域」が拡大しながら「活動の意味」が見出されることによって高齢者

個人とグループの学習が発展し、高齢者個人は自己受容し、他者と肯定的な関係が構築できるようになるなどwell-beingが向上し、高齢者グループ内の効力感が高まって活動の視野・方向性が拡がり、高齢者個人はさらに地域貢献意識が高まるというように高齢者個人とグループが影響し合って変化していた。

従来、住民組織や自主グループ等、地域で活動する住民グループを支援している保健師は、【経験豊かな保健師との対話を通じた保健師としてのグループ支援の考え方の学びの習得】や【他のグループ活動事例を直接見聞きすることによる住民主体のグループ活動や支援方法の学びの習得】<sup>13)</sup>等を通して支援を行っていた。しかし、近年は、保健師以外に保健や福祉に携わる専門職者も住民グループの活動を支援することがあるため、住民グループが、主体的に活動を継続・発展できるように支援する方法論と技術を獲得する必要がある<sup>14)</sup>。住民グループを支援するためには、どのような職種でも支援可能なガイドを開発することが有効であると考えられる。

以上のことから、ガイドをもとにボランティア活動における高齢者グループの学習の発展を支援することで、高齢者のwell-beingの向上とグループの高齢者同士が支え合うボランティアコミュニティの形成を促進できると考える。ひいては、地域において住民同士が助け合い、支え合うコミュニティの構築に発展し、地域共生社会の実現に寄与できると考えられる。

## II. 研究目的

本研究の目的は、高齢者のwell-beingの向上と高齢者同士が支え合うボランティアコミュニティの形成を促進するために、ボランティア活動における高齢者グループの学習を支援するガイドを開発することである。

## III. 用語の定義

ボランティア活動：身近な地域で高齢者の生活支援や介護予防を推進することを目的に複数名で高齢者自身が自主的・主体的に行う取り組み

相互関与：活動における高齢者ボランティア同士や支援対象者との交流とともに活動する関係

共同の営み：活動の目的や目標、運営の方針

共有領域：グループの中で共有している知識や技術、考え方、道具、行動

活動の意味：ボランティア活動の継続によって新たに見出した活動の意味

学習：状況的学習論<sup>12)</sup>を参考にし、高齢者同士で相互関与しながら活動の目的や目標を共有し、共通の方法

や考え方で活動を行えるようになることにより、高齢者個人およびグループが活動の意味を見出す過程

## IV. 研究方法

ボランティア活動における高齢者グループの学習を支援するガイド（以下、学習の支援ガイド）の開発は、研究1と研究2で構成した。

### 1. 研究1：学習の支援ガイド案の作成

先行研究1<sup>10)</sup>は文献検討より、先行研究2<sup>11)</sup>は高齢者ボランティアへの面接調査より、学習の要素「相互関与」「共同の営み」「共有領域」「活動の意味」を明らかにした研究である。まず、先行研究1で生成したカテゴリは意味内容をもとに、実践コミュニティの発展段階<sup>15)</sup>である、潜在、結託、成熟、維持・向上に分類した。次に、先行研究2で抽出したデータについて、コード・サブカテゴリの内容に着目して、先行研究1のカテゴリに統合した。統合した後、サブカテゴリをもとに、カテゴリ名の再検討と修正を行った。また、先行研究1のカテゴリに分類することが困難な内容については、実践コミュニティの発展段階に基づいて分類して新たなカテゴリとし、各段階における学習の各要素として再構成した。その後、実践コミュニティの発展を促す支援<sup>15)</sup>に基づき、生成したカテゴリから演繹的に概念的な支援を検討した。カテゴリは、学習の各要素および学習への支援における項目として、サブカテゴリは、項目の低位となる具体的な小項目として位置付けた。

### 2. 研究2：学習の支援ガイド案の内容妥当性と実行可能性の検証

#### 1) 研究参加者と選定方法

研究参加者は、高齢者グループのボランティア活動への支援経験がある保健師とした。選定基準は、高齢者を含むグループのボランティア活動を支援した経験が3年以上ある者とし、支援したグループは、ボランティア活動において高齢者ボランティア同士および高齢者が相互交流しているグループとした。

研究参加者の選定は機縁法を用い、研究者の教育研究活動により把握している、高齢者グループのボランティア活動への支援が活発な組織の代表者に研究参加候補者の選定・紹介の協力を依頼し、協力を得た。

#### 2) 調査期間

2021年9月

#### 3) 調査方法と調査内容

調査は、半構造化面接調査を一对一で1人1回、実施した。面接内容は、研究参加者の許可を得た上でICレコーダーに録音した。

調査内容は、基本情報として年代、職種、ボランティア活動を行うグループへの支援経験年数、グループの活動内容を聴取した。内容妥当性は、学習を4要素でとらえること、学習の発展を4段階でとらえること、学習の各段階における要素と支援の具体的内容について、実際との合致点・相違点を聴取した。実行可能性は、学習の支援ガイドの活用者、実際に支援に活用できる内容・グループ、学習の支援ガイドの使いやすさについて意見を聴取した。

#### 4) 分析方法

録音内容を逐語録化したものをデータとした。全参加者について、意見の内容毎に統合を行った。統合、整理した意見をもとに学習の要素とその支援を精査し、学習の支援ガイド案の修正を行った。

### V. 倫理的配慮

研究協力を依頼する際は、任意性の保障、安全性の保障、プライバシー・匿名性・個人情報の保護などについて説明し、書面で同意を得た。なお、本研究は、千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会の審査・承認を得て実施した（承認番号NR3-11）。

### VI. 結果

#### 1. 研究1：学習の支援ガイド案の作成

学習の支援ガイドの使用者は、ボランティア活動を行う高齢者グループを支援している看護職（保健師・看護師）、社会福祉士、コミュニティソーシャルワーカーなどの保健医療福祉に携わっている専門職とした。また、支援の対象は、高齢者が中心となり、ボランティア活動を行っているグループとし、高齢者同士の支え合いを支援するという観点からボランティア活動の内容は、高齢者を対象とした活動（介護予防や認知症を有する高齢者への支援等）とした。学習の支援ガイド案の構成を表1に示す。

表1 学習の支援ガイド案の構成

1. 学習の支援ガイド作成の意図
2. 学習と学習への支援の考え方
3. 学習の支援ガイドの活用方法
4. 具体的な支援
1) ステップ1：グループの学習段階の確認
2) ステップ2：該当する段階における課題の確認
3) ステップ3：グループへの具体的支援

#### 1) 学習の支援：ステップ1

ステップ1では、「相互関与」「共同の営み」「共有領域」「活動の意味」の4要素をもとに、各要素の具体的な小項目にチェックをつけることで、これから支援を行うグループが現在、学習のどの段階にあるのかを判断することとした。第一段階の潜在は、まだグループは形成されておらず、ボランティア活動に関心をもっている高齢者が地域に点在している段階とし、「相互関与」3項目から判断することとした。第二段階の結託は、グループが形成されたばかりで、これからグループとして活動を始めていく段階とし、「相互関与」2項目、「共同の営み」6項目から判断することとした。第三段階の成熟は、グループとしての活動が継続され、グループが拡大し、活動の内容も充実してきている段階とし、「相互関与」5項目、「共同の営み」3項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」3項目から判断することとした。第四段階の維持・向上は、活動を継続し、グループの状態は維持されており、さらに活動の内容や範囲を広げていこうとする段階とし、「相互関与」4項目、「共同の営み」4項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」4項目から判断することとした。

#### 2) 学習の支援：ステップ2

ステップ2では、ステップ1で該当すると判断された段階について、実践コミュニティの発展段階<sup>15)</sup>における第一～四段階の課題を「相互関与」「共同の営み」「共有領域」の視点から確認することとした。

#### 3) 学習の支援：ステップ3

ステップ3では、全段階に共通する支援として、ステップ1で達成できていると判断した項目は、グループが現在「できていること」として高齢者グループにフィードバックすることとした。

各段階における支援について、第一段階は、従来あるつながりを土台とし、グループの活動の目的や目標、運営の方針である「共同の営み」が形成できるように「共同の営み」6項目で支援することとした。第二段階は、高齢者ボランティアや高齢者との交流や関係を示す「相互関与」を拡大させ、グループの中で共有する知識や技術、考え方、道具、行動などの「共有領域」、活動を継続することによって見出す「活動の意味」を形成できるように「相互関与」5項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」3項目で支援することとした。第三段階は、「相互関与」3項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」3項目で各要素を拡大できるように支援することとした。第四段階は、グループの活動を維持しつつ、さらに拡大して地域づくり活動へと発展できるように「共同の

営み」を拡大させるため1項目で支援することとした。

## 2. 研究2：学習の支援ガイド案の内容妥当性と実行可能性の検証

検証の結果を以下に示す。アルファベットは、表2の参加者に対応し、【研究1で生成したカテゴリ（項目）】、〈研究1で生成したサブカテゴリ（小項目）〉、[参加者の意見]で示す（以下、同様）。

### 1) 研究参加者の概要

研究参加者は、a市の保健師3名、b市の保健師2名の計5名であった（表2）。a市では、介護予防サポーターを養成しており、サポーター養成講座を修了した高齢者が居住地区において、グループで活動する際に支援を行っていた。b市では、認知症予防サポーターを養成していた。サポーター養成講座を修了した高齢者に声をかけ、居住地区において認知症予防の活動を行う時に支援を行っていた。

表2 研究参加者の概要

参加者	A	B	C	D	E
年代	40代	40代	50代	30代	50代
所属	a市	a市	a市	b市	b市
職種	保健師	保健師	保健師	保健師	保健師
グループ活動への支援経験年数	4年	3年半	7年	3年	4年
グループの活動内容	介護 予防 認知症 予防	介護 予防	介護 予防	認知症 予防	認知症 予防

### 2) 内容妥当性の検証

#### (1) 学習の要素

高齢者グループにおける学習を4要素「相互関与」「共同の営み」「共有領域」「活動の意味」でとらえることについて、4名（A、B、C、E）から実際のとらえ方と合致しているという意見を得た。「相互関与」は、[お互い交流する相互関与のところというメンバーの交流とか、参加している方との交流は欠かせないと思うし、必要になってくる（B）]という意見を得た。「共同の営み」は、[グループとして活動していく上で、目的や目標をしっかりと定めて運営していくということも大事だと思うし、必要（B）]という意見を得た。「共有領域」は、[必要な知識や情報、それだけではない技術もやはり必要になってくるため、この要素は合っている（A）]という意見を得た。「活動の意味」は[活動することで参加者の方が変わっていくところを目の当たりにして、自分の活動の意義を感じるというところにつな

がっていると思うため、適していると思う（B）]という意見を得た。

#### (2) 学習の各段階

第一段階は、[最初は、大体いつもこのくらいの内容（E）]という意見を得た。第二段階は、「共同の営み」について[〈人と社会とかかわるきっかけ〉は、これは第1段階でもいいと思った（C）]、[〈活動にかかわる自己の知識を増やすことを目的としている〉は、もうちょっと早い段階のほうがいいと思った（E）]等、第一段階でよい項目があるという意見を得た。また、[[高齢者ボランティア・高齢者との活動内容の相談]は、そこまで行くにはかなり関係性ができないと、相談できないと思うため、第二段階でできるのかどうかと思った（B）]といった第三段階の方がよいという意見を得た。第三段階は、「共同の営み」は全て合致しており（C）、「共有領域」もほぼ合致しているものの「あうんの呼吸」は難しく（A、B、E）、[運営する中の実務として、言わなくてもフォローはし合える関係性ということになると思う（B）]という意見を得た。第四段階は、「相互関与」「共同の営み」「共有領域」「活動の意味」の全ての要素について、ほぼ合致していた。「相互関与」の【グループ活動を継続させるための検討と人材育成】は[高齢者の団体のため、人材育成は結構みんなが意識しており、『代表者をもっと若い人にも経験してもらおう』（中略）など第三段階でもできているところもあった（B）]という意見を得た。

#### (3) 学習への支援

第一段階は、「相互関与」に対して実際に行っている支援について、新たに意見を得た。この段階では、[グループワークをして、『私はこんなことをしている』ということを行いながら、グループをつくっていくという感じ（E）]などの【グループを結成するための話し合いの場の設定】や[自治会のバックアップがあると、参加者の幅も広がったりするため、自治会長に声をかけてお願いすることを支援した（B）]という【高齢者ボランティアと自治会との橋渡し】など地域の中でグループを形成し、ボランティア活動を開始できるように支援していた。また、「共同の営み」への支援として[常に地域の中にあって、地域のつながりの中から浮かないように、自分たちの自己満足の場にしないようにすることに気付いてもらえるように働き掛けている（C）]という【地域に根差した活動であることの意識づけ】を高齢者ボランティアに対して行っていた。さらに[共通の課題をもっているであろう人たちが集まっている時は、それを意識してもらい、（中略）高齢者なので、

過剰な負担にならないようにある程度は後押しが必要(C)]という【活動目的の意識化と運営方針決定のための助言】や【活動方針により異なる補助金や保険の情報提供】など、ボランティア活動に関わる情報を提供しながら活動方針の決定を支援しているという意見を得た。

第二段階では、「相互関与」に対して[定期的ではなく、何かあるとそのグループの中で話し合いなどを設けて、こういうときはどういふふうにしていこうかと話し合いの中で共通認識ができるようにした(A)]など【高齢者ボランティア同士が共通認識し合意形成できる話し合いの設定】を支援しているとの意見を得た。「共同の営み」に対しては、【グループ全体で目標や役割を共有する機会の設定】や【グループにおける個人の目標の確認】等の支援をしているとの意見を得た。また、「共有領域」に対しては、【グループの目標や役割を共有できる文書作成の促進】を、「活動の意味」に対しては、【参加者がこんなふうにして喜んでいたよ】とメンバーに伝えたり、(中略)みんな熱心に聞いてくれる場面をつくったりするとモチベーションが上がる(E)]など【参加者の良い反応のフィードバック】を行うことで形成できるように支援していた。

第三段階では、「相互関与」に対して【折り合いをつけて活動をできるように何々していきましょう】ではなく、そこが必要だと気付いてもらえるような支援が必要で、自分たちのスキルが問われると思った(B)]といった【折り合いをつける必要性の気づきへの促し】を行うことや「共有領域」に対して【活動後の反省会設定による考え方の共有】を支援すること等、高齢者ボランティア自身が気づき、考え方を共有できるように支援を行っていた。また、【活動への貢献を実感できる支援】を行い、「活動の意味」を見出せるように支援しているという意見を得た。

第四段階では、「共同の営み」に対して【新たなステップを先進的にできた地区のことを紹介することで、視点が広がっていた(B)]など【活動に関する新たな情報の提供】を行うことでグループの目的や目標が維持できるように支援していた。また、「相互関与」に対する支援として、【地域包括支援センターから「この人を通いの場につなげていきたい」という相談もあったりするため、活動しているメンバーを間にはさんで慣れるまでは一緒に行ってもらおうとか、声かけを意識してもらえるようにしている(B)]などの【新たに参加する高齢者が馴染める配慮の促し】や【自分たちのしていることを(他のグループに)教える立場になれる環境をつくって調整している(D)]などの【他のボランティアグ

ループと交流する機会の調整】を行い、活動が発展できるように支援しているという意見を得た。

また、「相互関与」に対しては、【代表者の集まりの時には、できるだけ対等に話し合いができるようにファシリテーションすることを一番重視し、それを自分たちのグループの中でもやってもらえればいいと思っている(C)]など【グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援】を全段階で行っているという意見を得た。

### 3) 実行可能性の検証

実行可能性について、学習の支援ガイド案の活用者は【専門職になると思うが、1年目の職員や経験が浅い職員には難しいと思う(E)]という意見を得た。学習の支援ガイド案は、【ボランティアグループの支援はある程度、保健師の勤みたいな部分で支援してきたため、こういった文章化されるのはよい(B)]という意見を得た。ステップ1で支援を行うグループの学習の段階を確認することは、【客観的にグループの段階の評価ができる部分は良い(A, E)]という意見を得た。しかし、ステップ1で該当する学習の要素を確認する際には、判断が難しい項目があり、【グループの特性によって、色々なグループの成り立ちやきっかけが変わってくると思うため、「全ての項目にチェックが付いた場合」となると、全て当てはまるのかどうかは気になる(A)]という意見を得た。また、学習の各要素については【イメージするのが難しい内容があるため、例が記載されているとよい(C, D)]という意見も得た。学習の段階は、高齢者グループと高齢者ボランティア個人の2つの視点から判断するため、【評価をする時にグループ全体としての評価と、個人の1人1人の思いがあるため、チェックを付けるのが難しくなると思った(A, B)]という意見を得た。ステップ2で高齢者グループが該当する段階の課題を確認することは、【実際の課題が出てきて、その課題に対して何をしていったらいいかというのわかりやすい(A)]という意見を得た。

### 3. 学習の支援ガイド案の修正

高齢者グループの学習と学習への支援は、研究参加者より得た意見をもとに帰納的な視点で修正を行った。学習の各要素および学習への支援における具体的な項目は、追加または修正した箇所を表3において下線で示した。

各段階における学習について、第一段階では、「共同の営み」に【活動を通じた人や社会とのつながりと社会貢献の希求】と【自己の知識・技術の向上と活用】を要素として追加した。第一段階の学習の要素は、「相互関与」3項目、「共同の営み」2項目とした。第二段階の

表3 高齢者グループの学習の要素と学習への支援（下線は研究1で作成した案に追加もしくは修正した箇所を示す）

段階	学習の要素	学習への支援
第一段階 潜在	<p>「相互関与」 既存の集まりの中で生じるボランティア活動開始のきっかけ 既存のつながりを通じたメンバー集め 取り組む価値を感じる活動の相談</p>	<p>「相互関与」を拡大させる支援 ボランティア活動を始めるきっかけづくり 活動を行う価値があるという意識を醸成できる交流の設定 グループを結成するための話し合いの場の設定 高齢者ボランティアと自治会との橋渡し 高齢者ボランティアと専門職との橋渡し 他の高齢者ボランティアの経験を共有する場の設定 自治会の役員を交えた話し合いの場の設定 グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援</p>
	<p>「共同の営み」 活動を通じた人や社会とのつながりと社会貢献の希求 自己の知識・技術の向上と活用</p>	<p>「共同の営み」を拡大させる支援 活動目的の意識化と運営方針決定のための助言 地域における高齢者の仲間づくり・生きがいづくり・居場所づくりの意識化への支援 地域に根差した活動であることの意識づけ 活動に関する知識・技術の向上と活用への支援 活動方針により異なる補助金や保険の情報提供</p>
第二段階 結託	<p>「相互関与」 接し方の工夫による高齢者ボランティア・高齢者との関係の構築</p>	<p>「相互関与」を拡大させる支援 高齢者ボランティア同士が共通認識し合意形成できる話し合いの設定 高齢者ボランティアがお互いに尊重し協力する関係の構築への支援 ボランティア活動の意欲が高まる交流の促進 グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援</p>
	<p>「共同の営み」 活動の運営方針 高齢者の健康とQOLの向上を目指す方針 目的である地域における高齢者の仲間づくり・生きがいづくり・居場所づくり 活動を通じた人や社会とのつながりと社会貢献の希求 自己の知識・技術の向上と活用 自分自身の楽しみの追求</p>	<p>「共同の営み」を拡大させる支援 グループにおける個人の目標の確認 グループ全体で目標や役割を共有する機会の設定</p>
	<p>「共有領域」 なし</p>	<p>「共有領域」を形成する支援 グループの目標や役割を共有できる文書作成の促進</p>
	<p>「活動の意味」 なし</p>	<p>「活動の意味」を形成する支援 参加者の良い反応のフィードバック</p>
第三段階 成熟	<p>「相互関与」 高齢者ボランティアがお互いに尊重し協力し合う関係 高齢者ボランティア同士で折り合いをつけた活動 高齢者ボランティア・高齢者との活動内容の相談 グループ活動を継続させるための検討と人材育成 知識・技術・情報の共有 高齢者からの学び ボランティア活動の意欲が高まる交流</p>	<p>「相互関与」を拡大させる支援 折り合いをつける必要性の気づきへの促し ボランティアコミュニティの関係性の深化への支援 グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援</p>
	<p>「共同の営み」 高齢者の健康とQOLの向上を目指す方針 目的である地域における高齢者の仲間づくり・生きがいづくり・居場所づくり 活動を通じた人や社会とのつながりと社会貢献の希求</p>	<p>「共同の営み」への支援 なし</p>
	<p>「共有領域」 活動の質を向上させる知識・技術・ツール 日常生活に役立つ知識・技術・情報 活動の中で心掛けている考え方 自然にフォローし合うグループ運営</p>	<p>「共有領域」を拡大させる支援 活動後の反省会設定による考え方の共有</p>
	<p>「活動の意味」 地域社会における役割と課題の獲得 継続的に学び合う場 今後の人生に影響を与える活動</p>	<p>「活動の意味」を拡大させる支援 活動への貢献を実感できる支援</p>

表3 高齢者グループの学習の要素と学習への支援(続き) (下線は研究1で作成した案に追加もしくは修正した箇所を示す)

段階	学習の要素	学習への支援
第四段階 維持・向上	<b>「相互関与」</b> 高齢者ボランティア同士で折り合いをつけた活動グループ活動を継続させるための検討と人材育成 ボランティアコミュニティの関係性の深化 他ボランティアグループ・組織との交流	<b>「相互関与」を拡大させる支援</b> 新たに参加する高齢者が馴染める配慮の促し 新たなボランティアに活動を伝える交流の機会の設定 地域に活動を浸透させる支援 他のボランティアグループと交流する機会の調整 地域の他機関や他部署への橋渡し グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援
	<b>「共同の営み」</b> 高齢者の健康とQOLの向上を目指す方針 目的である地域における高齢者の仲間づくり・生きがいづくり・居場所づくり 活動を通じた人や社会とのつながりと社会貢献の希求 地域の高齢者支援から支援の対象・内容を広げる展望	<b>「共同の営み」を拡大させる支援</b> 活動に関する新たな情報の提供
	<b>「共有領域」</b> 活動の質を向上させる知識・技術・ツール 日常生活に役立つ知識・技術・情報 活動の中で心掛けていた考え方 自然にフォローし合うグループ運営	<b>「共有領域」への支援</b> なし
	<b>「活動の意味」</b> 自分の知識、スキル、経験を活かして地域社会に貢献できる 自分の生活の一部 自分にとっての居場所 地域における支え合いの関係の構築	<b>「活動の意味」への支援</b> なし

項目としていた【高齢者ボランティア・高齢者との活動内容の相談】は、第三段階における「相互関与」の項目とした。第二段階の学習の要素は、「相互関与」1項目、「共同の営み」6項目とした。第三段階では、「相互関与」に【グループ活動を継続させるための検討と人材育成】を追加した。また、第三段階と第四段階の「共有領域」では、1項目の表現を【自然にフォローし合うグループ運営】に修正した。第三段階の学習の要素は、「相互関与」7項目、「共同の営み」3項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」3項目とした。また、第四段階の学習の要素は、「相互関与」4項目、「共同の営み」4項目、「共有領域」4項目、「活動の意味」4項目とした。

学習への支援について、第一段階では、「相互関与」は【ボランティア活動を始めるきっかけづくり】や【活動を行う価値があるという意識を醸成できる交流の設定】等の8項目を新たに追加した。「共同の営み」は【活動目的の意識化と運営方針決定のための助言】等の3項目を追加・修正した。結果、「相互関与」8項目、「共同の営み」5項目を、要素を拡大させるための支援とした。第二段階では、「相互関与」は【高齢者ボランティア同士が共通認識し合意形成できる話し合いの設定】、「共有領域」は【グループの目標や役割を共有できる文書作成の促進】、「活動の意味」は【参加者の良い反

応のフィードバック】に修正した。「共同の営み」への支援は【グループにおける個人の目標の確認】等の2項目を新たに追加した。結果、「相互関与」4項目、「共同の営み」2項目を、要素を拡大させるための支援、「共有領域」1項目、「活動の意味」1項目を、要素を形成するための支援とした。第三段階は、「相互関与」の1項目を【折り合いをつける必要性の気づきへの促し】に修正、「共有領域」を【活動後の反省会設定による考え方の共有】に修正、「活動の意味」は【活動への貢献を実感できる支援】に修正した。結果、「相互関与」3項目、「共有領域」1項目、「活動の意味」1項目を、要素を拡大させるための支援とした。第四段階では、「相互関与」への支援は、【新たに参加する高齢者が馴染める配慮の促し】等の6項目を新たに追加した。「共同の営み」は【活動に関する新たな情報の提供】に修正した。結果、「相互関与」6項目、「共同の営み」1項目を、要素を拡大させるための支援とした。

学習の各要素について、イメージすることが難しい項目は、具体例を追加し、支援経験が少ない者でも判断できるように改善した。また、学習の各要素における項目は、グループと個人にわけて両方の視点から判断できるようにした。さらに、第二段階において「共同の営み」の項目としている活動の目的は、個人によって様々であることから、各個人の活動の目的があることが確認でき

るように項目の記載の仕方を修正した。全ての修正をもとに学習の支援ガイドを完成させた（図1）。

## Ⅶ. 考 察

### 1. 学習の支援ガイドの特徴

本研究で開発した学習の支援ガイドでは、具体的な支援を3ステップで構成し、グループの形成前からグループの成長を維持する段階に至るまで継続的にグループの学習段階をアセスメントし、支援できるガイドとした。住民組織への支援について、保健師が認識する難しさには、「自主的な活動に取り組んでもらうきっかけや支援方法がわからない」、「グループが継続した先の方向性に迷う」、「迷った時に立ち戻れるグループ支援の基盤となるものがない」<sup>13)</sup>等があることが明らかになっている。本ガイドは、高齢者グループを支援する時に学習の段階をアセスメントするため、その都度、グループの状態を把握することが可能であり、具体的な支援内容を示しているため、保健医療福祉関係者が支援する際の困難感を軽減し、高齢者グループがどの学習段階でも活用できることが特徴であると考えられる。

また、本ガイドは、高齢者ボランティアが中心のグループが、同世代または年長世代の高齢者を支援することを目的としたボランティア活動における学習を支援す

るためのガイドである。住民組織に対する保健師の支援は、住民組織の仲間意識醸成への支援、民主的な意思決定を促す支援などの特徴をもつ<sup>16)</sup>ことが示されている。しかし、高齢者は加齢に伴い、認知的柔軟性が低下することで、頑固、融通が利かないといった高齢者に特有の行動<sup>17)</sup>がみられるようになる。そのため、【活動目的の意識化と運営方針決定のための助言】や【高齢者ボランティア同士が共通認識し合意形成できる話し合いの設定】といった、高齢者ボランティア同士で話し合い、共通の認識を持つことができるようにするなど高齢者の特性を考慮した支援を含んでいることも特徴であると考えられる。

本ガイドにおける学習への支援について、「相互関与」の【グループ内で対等に話せるスキル獲得への支援】は、全ての段階で行っている。実践コミュニティでは、形成の基礎として「相互関与」があり、コミュニティを存在づける「共同の営み」が存在し、コミュニティの参加者がお互いに「共有領域」が成り立つようになる<sup>18)</sup>。高齢者ボランティア同士および高齢者が対等に会話できることにより、グループ内における関係の形成・深化が促進され、「相互関与」が拡大して、「共同の営み」も拡がり、「共有領域」が形成され、「活動の意味」を見出すことによって、学習が発展すると考えられる。ともに学

### 1. 活用方法

1) 使用者  
ボランティア活動を行っている高齢者のグループを支援している看護職（保健師・看護師）、社会福祉士、コミュニティソーシャルワーカーなどの保健福祉に携わっている専門職とします。

2) 支援の対象  
高齢者を中心にグループを運営し、ボランティア活動を行っているグループとします。高齢者同士の支え合いを支援するという観点からボランティア活動の内容は、高齢者を対象とした活動（介護予防や認知症を有する方への支援など）とします。

3) 支援ガイドの使い方  
この支援ガイドで支援するグループは、活動を開始したばかり、安定して活動を行っているなど、どのような段階であっても使用可能です。支援ガイドを使用して、その時点におけるグループの段階を把握し、**継続的に使用する**ことで、支援に役立ててください。  
ボランティア活動における学習は、四つの段階で構成されています。**この段階は、全てのグループが一様に進むわけではありません。**ある段階を飛ばして進み、後からその段階に戻る場合、最後の段階までたどり着かない場合、第二・第三段階で能力的なピークを迎える場合があります。以下の3つのステップをもとにグループの段階を把握しながら支援を行ってください。支援を行う際は、25ページ以降のワークシートを使用してください。

(1) ステップ1  
「相互関与」、「共同の営み」、「共有領域」、「活動の意味」の4つの要素で構成された表をもとにグループの状態を判断し、これから支援を行うグループが現在、どの学習の段階にあるのかを確認してください。

(2) ステップ2  
該当する段階における一般的な課題を確認してください。

(3) ステップ3  
高齢者グループの活動へ具体的な支援をしてください。支援には、(1) 全段階に共通する支援と (2) 各段階における支援の2つがあります。

### 2. 具体的な支援

1) ステップ1：グループの学習段階の確認

P.6～P.11の表は、「相互関与」、「共同の営み」、「共有領域」、「活動の意味」の4つの要素で構成されています。段階によっては、要素が4つない場合もあります。表の内容をもとに、支援するグループができていることをチェックし、現在、支援するグループが学習のどの段階にあるのかを確認してください。

(1) 第一段階：潜在  
この段階は、まだグループは形成されておらず、地域にボランティア活動に関心をもって  
いる高齢者が点在している段階です。  
支援している高齢者グループができていない項目に☑をつけてください。

相互 関 与	<input checked="" type="checkbox"/> ①既存の集まりの中で生じるボランティア活動開始のきっかけがある
	<input type="checkbox"/> 既存のグループの中でボランティア活動を始めるきっかけができていない
	<input type="checkbox"/> ボランティア活動を開始する価値を実感している
共 同 の 営 み	<input type="checkbox"/> 活動の発案者から話を聞いて活動を行う価値を感じている
	<input type="checkbox"/> ③既存のつながりを通じてメンバー集めができる
	<input type="checkbox"/> 普段の関わりから高齢者支援に共感しそうな人と一緒に活動ができるか声をかける
共 同 の 営 み	<input type="checkbox"/> ①活動を通じた人や社会とのつながりや社会貢献を目的としている
	<input type="checkbox"/> 活動を通して地域社会に貢献することを目的としている
	<input type="checkbox"/> 人や社会と関わるきっかけとすることを目的としている
	<input type="checkbox"/> ②自己の知識や技術の向上と活用を目的としている
共 同 の 営 み	<input type="checkbox"/> 活動を通して技術を習得することを目的としている
	<input type="checkbox"/> 活動に関わる自己の知識を増やすことを目的としている
	<input type="checkbox"/> 自分自身の能力・技術を活動に活かすことを目的としている

→「相互関与」①～③の全ての小項目と「共同の営み」①、②の小項目のいずれかに☑がついた場合は、この段階を達成しています。P.7の(2)第二段階：結託に進み、さらにグループができていない項目に☑をつけてください。

図1 学習の支援ガイドの活用方法と具体的な支援の一例

び合う高齢者グループの基礎である「相互関与」の拡大を常に支援していることが本ガイドの特徴であると言える。

## 2. 高齢者グループの発展への期待

本ガイドの活用の対象は、高齢者を中心とし、生活支援や介護予防の推進を目的としてボランティア活動を行うグループである。高齢者ボランティアは、高齢者の支援を行っているが、人が真に救われるとき、救う人と救われる人の間には相互作用が生まれ、お互いに高め合える<sup>19)</sup>ことが示唆されている。そのため、本ガイドを活用し、高齢者グループの学習を支援することによって、高齢者グループは【継続的に学び合う場】となり、【地域における支え合いの関係の構築】が促進され、やがてボランティアコミュニティに発展しうる。居住する地域で支援者の高齢者ボランティアと受援者の高齢者が助け合い、高め合うボランティアコミュニティは、共に生き、相互に支え合うことができる地域<sup>20)</sup>であるケアリングコミュニティに発展することが期待できると考える。

## 3. 本研究の限界と今後の課題

本ガイドは、先行研究を再分析・統合することによって学習の支援ガイド案を作成し、高齢者グループのボランティア活動への支援経験がある保健師に面接調査を行うことで、内容妥当性と実行可能性に関する意見を聴取して開発した。従来、住民グループを支援している一職種にのみ面接調査を行ったことは、本研究の限界である。今後は、保健師以外の職種にも調査を行い、本ガイドを洗練する必要がある。また、実際に本ガイドを活用して高齢者グループを支援し、高齢者ボランティアのwell-beingの変化やボランティアコミュニティの形成の視点から本ガイドの有効性を検証していく必要がある。

## 謝辞

本研究にご協力くださいました保健師の皆様を中心に御礼申し上げます。また、本研究の実施にあたり、ご助言をいただきました諸先生方に感謝申し上げます。

本研究は、千葉大学大学院看護学研究科における博士論文の一部を加筆修正したものである。

## 利益相反

本研究における利益相反はない。

## 引用文献

1) 厚生労働省：「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」最終とりまとめ、

<https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/000581294.pdf> (2023.10.8検索)

- 2) 厚生労働省老健局老人保健課：介護予防について、<https://www.mhlw.go.jp/content/000940062.pdf> (2023.10.9検索)
- 3) Ren, Z., Zhang, X., Li, Y., et al.: Relationships of leisure activities with physical and cognitive functions among Chinese older adults: A prospective community-based cohort study, *Aging & Mental Health*, 27(4): 736–744, 2023.
- 4) Guiney, H., Machado, L.: Volunteering in the community: potential benefits for cognitive aging, *The Journals of Gerontology: Series B*, 73(3): 399–408, 2018.
- 5) Jenkinson, C. E., Dickens, A. P., Jones, K., et al.: Is volunteering a public health intervention? A systematic review and meta-analysis of the health and survival of volunteers, *BMC Public Health*, 13(1): 773, 2013.
- 6) Breheny, M., Pond, R., Lilburn, L. E. R., et al.: “What am I going to be like when I’m that age?”: how older volunteers anticipate ageing through home visiting, *Journal of Aging Studies*, 53: 100848, 2020.
- 7) 小石真子：独居高齢者サロンにおけるボランティア活動の実態，*日本健康医学会雑誌*，24(3)：240–241，2015.
- 8) 吉田和枝：地域ボランティア活動を行う高齢者女性の参加の意味と運営方法，*日本看護学会論文集：地域看護*，41：49–52，2011.
- 9) 岸奈生子，會田信子，緒形明美他：高齢者に対する傾聴ボランティア活動の実際と継続要因に関する基礎的研究，*日本看護医療学会雑誌*，16(1)：18–30，2014.
- 10) 堀田かおり，石丸美奈：ボランティア活動における高齢者グループの学習と学習による変化—実践コミュニティの視点—：質的システムティックレビュー，*千葉看護学会会誌*，27(1)：61–70，2021.
- 11) 堀田かおり，石丸美奈：ボランティア活動における高齢者グループの学習の様相と学習における高齢者個人・グループの変化，*千葉看護学会会誌*，27(2)：69–78，2022.
- 12) ジーン・レイヴ，エティエンヌ・ウェンガー：状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加（佐伯胖訳），*産業図書*，1993.
- 13) 植村直子，宮崎美砂子：当事者グループ・住民組織の支援について保健師が認識する難しさとそれを乗り越える看護実践能力—コンピテンシーとケイパビリティの概念からの分析—，*千葉看護学会会誌*，22(1)：53–62，2016.
- 14) 山田小織，守田孝恵：地域の健康課題解決を目指す住民組織の活動形態と保健師の認識，*リハビリテーション連携科学*，15(1)：30–37，2014.
- 15) エティエンヌ・ウェンガー，リチャード・マクダーモット，ウィリアム・M・スナイダー：コミュニティ・オブ・プラクティス（野村恭彦監修），初版，翔泳社，111–174，2002.
- 16) 中山貴美子：住民組織活動が地域づくりに発展するための保健師の支援内容の特徴，*日本地域看護学会誌*，11(2)：7–14，2009.

